

「自然を守る森林官になりたい」

入門先：林野庁 中部森林管理局 富山森林管理署

日 時：令和5年8月22日（火）8：45～17：00

8月24日（木）8：45～17：00

講 師：林野庁 中部森林管理局 富山森林管理署

総括事務管理官 井上 元晴 先生

総務グループ 松下 千紗 先生

神通森林官 堤 隆博 先生

立山森林官 住 裕介 先生

1日目：8月22日火曜日

① オリエンテーション（日程・管内概要・安全指導）



オリエンテーションでは、2日間の職業体験の予定、森林管理局の仕事の内容、森に入る時に注意することについての説明を聞きました。

私の他にインターンシップの大学生が2人加わり、森林管理署の方と人づくり財団の方の合計10人で、国有林の森林整備の仕事や不法投棄のパトロール、室堂での高山植物の保護と外来植物除去の仕事を経験すると説明を受けました。

森林管理署は富山県以外にもたくさんの拠点があり、富山県は国有林が県森林面積の約24%を占めると教えてもらいました。今日見学する国有林は樹齢62～63年の木が多く、スギの木が3,884本も植えられているとのことでした。また、全国的にニホンジカが生息範囲を広げていて、スギの樹皮や植物の芽を食べるなどの被害が出ているそうです。また、そういった森林の植物は人間が守らないと枯れてしまうという話を聞いて、森林官の人たちはどのように森や自然を守っているのだろう？と興味をわいてきました。

安全指導では、山や森に入る時は手袋・蜂除けネットをつけて、ヘルメットをかぶること、こまめな水分補給を心がけること、リュックサックは両手が使えるようにしっかり背負うことを教わりました。手袋は厚手で蜂に刺されても針が通らないようになっていて、蜂除けネットをヘルメットに取り付けることで顔や頭を守る事ができます。これなら万が一蜂が襲って来ても準備は万全だと思いました。



林野庁のヘルメット

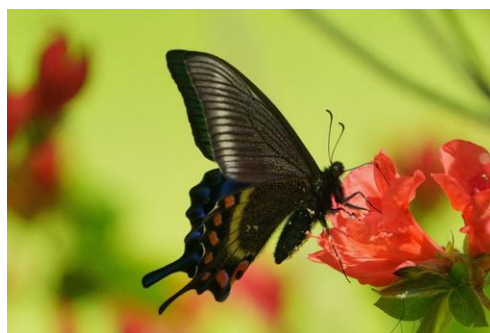


蜂除けネットをつけた状態

富山森林管理署の鈴木署長にも入門のあいさつを済ませ、いよいよ出発です。車で国有林に向かっている時、黒いチョウが飛んでいてカラスアゲハだと教えてもらいました。キラキラしていてとてもきれいでした。山に行くと色々な昆虫や動植物に出会えることが楽しみです。



緊張しないよういろんな話をしてくれました！



カラスアゲハ (PIXTA より引用)

② 森林環境整備事業（保育間伐活用型）

・長棟国有林 201 林班事業概要、収穫調査ほか



国有林に到着し、ヘルメット・蜂除けネット・手袋を付けて少し山道を歩くと、切った木をつまんで決められた場所に置いたり、ワイヤーを張って斜面から木を降ろしたりするための重機(スイングヤーダ)がありました。スイングヤーダは、100m くらいまでの短い距離や急斜面から木を降ろす時に使う重機で、動いているところは見られませんが、近づくと大きくてすごく迫力がありました。

普段見たことが無い特殊な機械を使って仕事の効率を上げていて、重機の操作にも高度な技術が必要だと聞いたことがあります。



角度をつけてガケ側に水が流れない工夫

重機の近くには雨が降った時に水の通り道をつくるためのゴム板が埋めてありました。

町中のように道のわきに溝を掘って水路を作るのではなく、がけ側に水が流れ落ちて林道を傷めない様に雨水が道に沿って自然に流れるように、林道の斜面を利用して上手く水を流す工夫がされていました。

木の切り方と倒し方（伐倒）



切り株に段差がついていたので、「どうしてこんな形になったの？」と質問すると、統括事務管理官の井上さんが、その理由と木の切り方と倒し方を教えてくれました。

〔木の切り方・倒し方と切り株の段差ができた理由〕

- (1) 最初に倒したい方向を決めて、倒す方向に背中を向けて立つ
- (2) 邪魔になる草や枝を払ったら、切り込みを入れる（受け口）
- (3) 倒したい方向に向かって立ち、最初の切り込みの斜め上から切り込み（追い口）を入れていくと木の重さで倒したい方向に自然に倒れていく。この時に切り株に段差ができる。

ただ木を切って倒すのではなく、木の曲がり方から安全に倒せる方位はどこかを見極めて、切った後の作業の効率も考えながら伐倒をしていることがわかりました。

曲がった木・皮がめくれた木



「なぜ木が曲がったり、皮がめくれたりしているの？」と質問すると、雪の重さで木が曲がるが、曲がった木は重さを支える力が非常に強い。皮がめくれているのは、クマが爪を研いだりするため、木に傷がつくと中から腐ってしまうことがあると教わりました。

統括事務管理官の井上さんは、どんな質問をしてもわかりやすく説明してくれるので、たくさん勉強されているんだと思いました。

③ ドローン

・事業状況の確認ほか



少し場所を移動して、木の育ち具合を測定しました。木の直径や高さを専用の道具（輪尺やバーテックス）を使って測定し記録します。私が測った木は、直径 36cm・高さ 18.2m でした。最近では、森の中を動き回らずに木の状態が確認できるので、ドローンを使うことが多くなってきているようです。

森林官が使うドローンは、森林の真上からの映像をタブレットでリアルタイムに確認できる専用のアプリが入って、すごく便利になったと聞きました。

私もドローンの操縦を体験させてもらいました。操縦機が思ったより重く、初めてだったのでうまく飛ばせるか心配でしたが、操作を教えてもらい何とか飛ばすことができ、すごく貴重な体験をすることができました。

④ 布尻土場

・出材状況の確認



伐倒した木は、ワイヤーをかけて重機の近くまで降ろし、2m または 4m の長さの丸太にカットして土場まで運んで積み上げます。積み上げた丸太は、次の手順で直径・長さを測ります。

- (1) 直径を測り青色で書く
- (2) 長さを測り黄色で書く
- (3) もう一度長さを測り赤色で書く



合格判定を受けた丸太

合格判定を受けた丸太は、原木市場で「競り」にかけられて、販売された先で様々な製品へと生まれ変わっていきます。

⑤ 境界巡検 大沢野国有林 ・境界巡検



境界線巡検では、国有林との境界を示している境界標を1年に1回点検しているそうです。境界標が傾いたり、壊れたりしているのを発見すると、「異状あり」として応急処置を行います。応急処置でも直せない場合は、後日改めて修理するとの事でした。境界標や丹頂杭が壊れると境界線がわからなくなるため重要な作業だと聞きました。

⑥ 1日目のふりかえり



明後日は室堂に行き高山植物の保護と外来植物の撤去を行うと説明がありました。標高2400mの場所は、平地より14度ほど気温が低いので、長袖が必要です。水分補給ができるよう、飲み物は多めに持ってくるようにと指示を受けました。

「自然を守るために私たちができることは？」と質問すると、「木を植えて大事に育てること、木材が使われている製品を買って使うこと」が自然を守る事に役立つと教えてもらいました。

ヘルメットがかっこよくてすごく気に入ったので記念写真！

2日目：8月24日（木）

オリエンテーションと室堂への移動



普通の車は入れない道

同行していただいた井上さん（左）と松下さん（右）

室堂に同行していただく中部森林管理局の方の紹介があり、女性森林官の卵でいらっしゃる松下さんが同行して下さるとのことでした。室堂へ移動する車の中で、井上さん・松下さんから習い事の練習や勉強のコツ、好きな高山植物の話や外来植物が怖い理由、仕事に出会ったことがある動物の話を教えてもらいました。

印象に残ったのは、習い事は「これどうだっけ？」が無くなるまで練習をするとよい、外来植物は高山植物が必要な栄養を吸い取ってしまい、高山植物の生息範囲を占領してしまう話、溝に大きなスズメがいると思ったら雷鳥だったという話が印象に残りました。



予定の時間より少し早めに到着したので、資料館を見学させていただきました。資料館には、ライチョウの羽が季節ごとに色が変わる様子や珍しいチョウや昆虫、高山植物がたくさん展示してありました。

ライチョウを見つけたらステッカーがもらえるそうです。私もライチョウに出会えるかな？

① 室堂（ブナ坂国有林）高山植物等パトロール
・概要、注意事項



森林官の住さん(左)は私が通っている小学校の野球チームの元指導者だった！！

ゴミ拾いに出発した時に雨が降り出したので、資料館に戻ることになりました。小雨だったけど、雨がなかなか降り止まないのので、富山県立山センターに移動し、皆でお昼ご飯を食べることになりました。

「外来植物除去法」、「なぜ立山で外来種を除去するのか?」、「森林官用の登山マップ」などの資料をもらいました。

② 外来植物除去（室堂周辺）⇒悪天候のためパトロールに予定変更



なかなか天候が回復しないため「外来植物の抜き取りと除去」は、室堂周辺の「パトロール」に変更になりました。森林官の方たちの説明を聞きながらのパトロールはすごく勉強になりました。

例えば、高山植物は標高 2500m 以上の高地に自生している植物で、外来植物は靴の裏や車のタイヤについた種から発芽することなどを説明してもらいました。

説明してくれた森林官の住さんは、どんな質問をしても的確にすぐに答えてくれるだけでなく、みんなが疲れてきた時、住さんと話をするとなぜか笑顔で元気になって頑張れる不思議な魅力がある方でした。



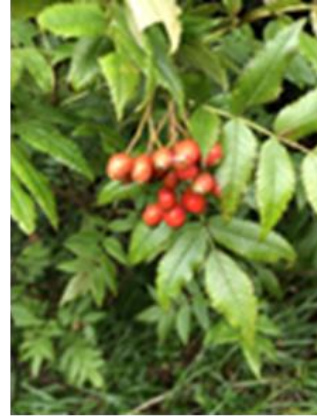
室堂には、景色と高山植物を見ながら散策できるコースがあり、そこにはたくさんの高山植物が咲いていて、ものすごくきれいな植物やかわいい植物がたくさんありました。森林管理署OBの米澤さんから図鑑をもらい、図鑑に載っていない高山植物もいっぱいあるよと教えてもらいました。

森林管理署OBの米澤さん

～ 立山の素晴らしい景色 ～



～ かわいくてきれいな高山植物 ～



みくりが池の絶景写真スポット



みくりが池の水面に山が反射してハートの形に見える！

森林官の住さんが教えてくれた「みくりが池」の写真撮影スポットで記念に写真を撮りました。

「みくりが池」は水が澄んでいてとてもきれいでした。池の水面に山が反射して、空がハート型に見えます。家族や友達とまた、訪れてみたい素敵な場所でした。

ライチョウのごはん「ハイマツ」



ライチョウの巣やご飯になる「ハイマツ」

「ハイマツ(背が低い松)」は、地面と葉の隙間にライチョウが巣を作って子育てをします。松の中にある松ぼっくりや高山植物の花はライチョウのごはんになると教えてもらい驚きました。

お互いに自然の中に生息するもの同士が食物連鎖をすることで、自然が成り立っていくから、食べる・食べられるの関係はとても大切です。高山植物があるおかげで、生きていける動物もいることがわかって大切な体験でした。

運よくライチョウに出会えた！！



ライチョウに会えた人がもらえるステッカー

「山崎圏谷」というところを散策しているときに運よく、本物のライチョウを見つけて動画と写真を撮ることができました。ライチョウは白いと思っていたけど、年に3回も羽の色が変わることを知りました。子育てシーズンの今は木の幹の色に羽の色が変化し、ハイマツの中に隠れて、天敵から身を守りながら子育てをすとのことでした。ライチョウは私たちを見ても全く怖がらず、こちらを見ていました。



林野庁と環境省の境界線



今回の見た高山植物の中で一番のお気に入り

室堂を散策した後、林野庁と環境省の境界線(普段は立ち入り禁止の場所)に行き、年に1回の点検に立ちあうことができました。

移動の途中でベリーみたいな高山植物を見つけました。すごく小さくてかわいい葉っぱにきれいなピンク色の実がついていて「こんなにきれいでかわいい植物があるんだなあ…」と感動しました。

お世話になった皆さんとの記念撮影



最後に中部山岳国立公園の石碑の前で記念撮影をした後、立山に来た人は必ず飲むという、「立山玉殿の湧水」を飲みました。

湧水はものすごく冷たくて、心も体も清らかにリセットされた感覚になりました。足洗い場に移動して、登山靴の裏側を洗ってから、立山を後にしました。

③ ふりかえり（感想の発表）

ふりかえりでは、2日間の感想を発表しました。

1日目で印象に残ったことは、木の切り方でした。安全を第一に考え、作業の効率も考慮して倒したい方向を決めて木を切っていくという説明を聞いて、「準備をしっかりとすること」と「安全第一を心がけること」がすごく大切なことだと改めて分かりました。



2日目で印象に残ったことは、珍しい高山植物や素晴らしい景色をたくさん見ることができたことと、運よくライチョウに出会えたことです。立山の雄大な景色とその中で暮らすライチョウや初めて見る高山植物は、私たちが守らなければいけないと強く思いました。

④ 若手職員との意見交換（質疑応答）



若手職員の方との意見交換では、「立山のごみの量は減っている？」「森林官になったきっかけと森林官になった後の目標は？」、「どんな雰囲気職場なの？」「山火事や水不足のニュースがあったが、富山県は大丈夫？」「森林官の仕事で楽しいこと、辛いことは？」などたくさん質問に答えていただきました。

最後に鈴木署長のところにあいさつに行った時に、「どんな質問でも答えるから、いつでも遊びに来てね。」と言っただけで、とてもうれしかったです。「ウッドチェンジ（林野庁のホームページ）」の写真撮って、解散となりました。

短期体験学習のまとめ

私たちが普段何気なく使っている「木」は、長い年月をかけて森林官や地元の方たちが守り・育てていることがわかりました。

また、立山では雄大な自然やきれいな景色、かわいい高山植物やライチョウが暮らしている姿を見て、「自然を守るのも壊すのも私たち人間なんだ…」と気づきました。

みんなが安全で豊かに暮らしていくには、自然を守る事が大切です。今日も自然を守るために頑張っている人たちの思いを受け継ぎ、何十年・何百年先を見すえて、地域の人たちが笑顔で暮らせることに貢献できる森林官の仕事は素晴らしいと思いました。私も改めて森林官になりたいと思った2日間でした。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。